

第12回岩内町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 開催結果

日時：令和6年10月7日（月）13：30～

場所：岩内町役場 3階 委員会室

<出席者>

計19名

委員：12名 ※欠席4名

オブザーバー：2名

事務局：5名

1 開会

- ・事務局：開会

2 議題

- (1) 第3期岩内町人口ビジョン・総合戦略の概要について
 - ・事務局より第3期岩内町人口ビジョン・総合戦略の概要について、第3期岩内町人口ビジョンの素案について説明
- (2) 第2期岩内町総合戦略の進捗状況等について
 - ・事務局より第2期岩内町総合戦略の進捗状況等について説明
- (3) 第3期岩内町総合戦略（素案）について
 - ・事務局より第3期岩内町総合戦略（素案）について説明

< 委員 >

- ・第3期総合戦略（素案）に掲載している奨学金返還支援事業とは具体的にどんな事業か。また、それは貸与という形になるのか。

< 事務局 >

- ・今年度（令和6年度）から既に取り組んでいる事業で、最長10年間で月1万5,000円を町内の企業に正社員として就職した若者に対して、奨学金の補助をするという事業。補助金の支給になるので返還義務はない。

< 委員 >

- ・札幌に勤めているが岩内に戻って働きたい人がいる。しかし奨学金の返還等、金銭面が原因で悩んでいる。こういう取組があればとてもおすすめもしやすいし、ありがたい。

○全体を通して委員からの意見

< 委員長 >

- ・移住・定住ではなく定住・移住の順番。定住者がしっかりと住み暮らし、良い町なら移住したくなるということ。
- ・岩内町の計画の中で固定観念に固まってしまうと、抜け出せなくなるので視点を変えることが大切。
- ・いろいろな政策はあるがそれを公か私企業かどちらでやるのか色分けをした方がいい。
- ・SWOT 分析には順番があり、脅威→機会→弱み→強みの順で行わないと違う分析になってしまう。
- ・事務局からの説明をきいた中で各委員から意見をもらいたい

< 委員 >

- ・第3期総合戦略（素案）に掲載している空き家店舗等活用支援事業について、建物だけの支援ではなく、1つのゾーンとして支援をしていただきたい。

< 委員 >

- ・現実問題として一番大きいのはナマコ関連。ALPS 処理水の関連で厳しい状況にある。ナマコは、ほぼ中国で消費されていて商売として成立しているが、ナマコ以外にも考えていかなければいけない。
- ・奨学金返還支援事業については新卒者のみと勘違いしていたが既卒者でも対象としているのか

< 課長 >

- ・制度上では既卒者も対象となる。年齢は35歳まで。

< 委員 >

- ・DMOのお話を廃止されると聞いた。観光というのを一つの産業化にするということであれば、岩内町単独でもいいからDMOの設立を考えるといいと思う。
- ・空き家対策については改修のパッケージモデル等を作っておくと住まう方が考えやすいので是非検討してみてほしい。

< 委員 >

- ・倶知安町のように観光が人口に大きな影響を与えてるにも関わらず日本人の人口というのは減っていくもの。しかし外国人が減っている人口を抑えている構造になっているの

で、外国人の受入や人材の活用などの考え方をもってもいいと思う。

- ・現在振興局では、ニセコトレイルという雷電海岸からニセコの比羅夫坂を 1 つの登山道で繋いでトレイルコースとして結び、倶知安・ニセコエリアに集中している観光客を他の地域にも足を運んでもらう取組をしている。ぜひ一緒となって頑張っていきたい。

< 委員 >

- ・人口減少が起こっている中、人口を 1 万人以上保っていることはすごく力がある町だと思う。2 点意見がある。
- ・1 点目は資料 8 稼ぐ力を伸ばし、安心して働けるようにするも新たな産業の創出の所。クラフトビールや CAT スキー等面白い事業があるが、一般大衆向けではなくコアな人たちが楽しめる趣味だと思っている。このままずっとやるものか、更に広げることを狙うかでやり方が変わってくると思う。もっと初心者などが入りやすい工夫があると良いと思う。
- ・2 点目はこれから将来を考えて、高速道路、新幹線が入ってきた時今後住む人が共和と岩内どっちに住むか考えるときに岩内に住みたいと思えるような環境づくりが必要だと思う。

< 委員 >

- ・町の人口減少とともに教員不足も見受けられる。後志地域は 3 年前では 300 人ほどいたが 2 年前は 150 人、去年は 70 人を切った。その中で今年は札幌から 3 名採用している。
- ・まちづくりやスポーツ、芸術を支えていくシステムを考える中で、子ども達が考えたもの、どう考えているかを聞く、知っていただく機会があるとうれしい。

< 委員 >

- ・社会減の減少が鈍化しているというのも相まって個人で空き家に住みたいという話ではなくて、アパートを建てて賃貸アパートを営みたいという相談が来る。空き家の居住人に対する補助もそうだが、そういった賃貸アパートに対する補助も検討してほしい。
- ・北洋銀行でも東京本社のネットワークを通じて企業版ふるさと納税のマッチングサービスを始めた。財源の貴重な一部としてご活用していただきたい。

< 委員 >

- ・ハローワークでは小学生などに柔軟な働き方を考えてもらうために、現在会社や仕事を知ってもらうために見学など接触する機会を作っているところ。
- ・小学生人材育成事業、岩内高等学校との連携・協働事業について詳しい内容を教えてほしい。

< 事務局 >

- ・小学生人材育成事業は岩宇まちづくり連携協議会として岩宇 4 町村が一緒になって岩宇の魅力を変えて小学生に伝えるために 4 町村を巡るツアーを毎年 1 回実施している。
- ・岩内高校との連携・協議事業としては 9 月に課題研究会という町が進めている取組を高校生に知っていただいて、そこから高校生の探求の時間につなげ、それぞれ興味のある事例について学びを深めていただくものと、岩内町にどのような仕事があるかいろいろな企業が集まって説明する企業説明会に呼ばれている。

< 委員 >

- ・以前札幌市で実習の受入をいろいろな企業にお願いをしたことがあるが、複数の企業から「実習や体験した時の思い出が忘れられなくて自分の会社に来てくれる」と聞いた。岩内町でもきっかけがあれば地元に残ってくれる人が増えるのではないかなと思う。

< 委員 >

- ・木村委員長が言っていた町の脅威が子育てだと思ふ。産婦人科がないことや、子育て中の両親に対する支援が薄いのではないかなと思う。協会病院に補助金を出して産婦人科を作るなど対策などどう考えているかお聞きしたい。

< 委員 >

- ・後志管内で産婦人科があるのが倶知安厚生病院、小樽の協会病院、小樽の民間の病院ということ。倶知安の厚生病院は医師が 2 名おりその医師を確保するために補助金を出している。
- ・今岩内の教会病院は小樽の協会病院と遠隔しながら診察してこの地域で産み、育てることが出来るようにとりくんでいただいている。補助金をだして産婦人科を作るというのはなかなか厳しく、産婦人科の絶対数が足りない、施設設備がなかなか確保できないというのが現状。他にも内科医と外科関係の医師をどうにか確保出来ているというのものもある。

< 委員 >

- ・承知した。

< 委員 >

- ・観光や経済なども大事になってくるが、住んでいる人が幸せであるかということ。他には教育、子育てというのが移住のきっかけになると思う。私自身教育の観点で移住する所を考えていたことがあった。
- ・岩内町は小中高の居場所が全然ないと感じている。テーブルと椅子があつて勉強してもいい、おしゃべりしてもいい、ゲームをしてもいいというような居場所があるとうれしい。

乳幼児のケアというのは手厚いが、それ以降の小中高生の幸福感等が高められる町だと移住者も増えていくと思う。

< オブザーバー >

- ・義務教育学校が出来た時の、今 4 校に行っている生徒達の公共交通の検討はどの政策に紐付くのか。

< 事務局 >

- ・現段階で教育委員会の方で協議等進めていると思うが子ども達の移動の手段としてノッタラインの利用が考えられるという検討がされていると伺っている。
- ・あくまで公共交通側としては町内の今の利用者の利便性を保つということで事業を進めている。そういった要望が出てくるのであれば検討する。

< オブザーバー >

- ・町民アンケートの中で、通勤通学が不便、公共交通の便が悪いというコメントが多かった。義務教育学校が出来ても通学に対する公共交通のことが入っていないと通う生徒が大変だと思う。
- ・この第 2 期の政策では義務教育学校を建てたので終わりという風に見えてしまうから建った時に外から入ってきたいと思うような取組も必要だと感じる。

< オブザーバー >

- ・移住より定住が先という話題があったが、定住という面でやってきたことを紹介させていただく。岩内町は移住者が来ることを想定されておらず、イベントなどの案内や情報がなく移住してきた方がつまらないといていた。何とかしたいと思い生活体験をブログにまとめ、イベントなどの情報発信をし、岩内町に住んでいるとどんなことが起きるのかを発信していた。

< 委員 >

- ・この素案はあくまでも第 2 期の計画に各所管から 3 期に登載するか落とすかという意見を反映させたもの。委員の皆様からこういう事業があったら岩内町の人口減少につながるといったことを要望していただけるとありがたい。
- ・また企業版ふるさと納税を町で受けるに当たってこの計画に登載されていないと受けることが出来ないということもある。

< 委員長 >

- ・岩内町のゴールは何かと考えると、いかに健康な生活が出来るか、人と人がつながる仕組みを作れるのか、一定の生活をするために稼ぐ仕組みが作れるのか、そういう所を盛り込むことが出来れば住む人にとって有意義ではないかと考える。

3 その他

< 事務局 >

- ・次回の開催は1月を予定している。説明した事業は適宜質問をお受けする。

4 閉会